

2024年11月

教会学校校長及び教師  
教会・伝道所牧師及び役員  
キリスト教関係施設及び学校 皆様へ

第42総会期 日本基督教団教育委員会  
委員長 横山ゆずり

## 2024年度 全国教会学校クリスマス献金のお願い

クリスマスを迎えるにあたり、主の恵みのもと、宣教の業に励んでおられることと思います。わたしたちは「みんなで生きよう」の主題のもと、世界と日本で子どもたちと共に生き、喜びと苦しみを一緒にしようと、多くの子どもたちの協力を得て、クリスマス献金をささげてきました。今年には以下のような計画を立てました。ご協力をお願いいたします。

### <募金計画>

**主 題：**「みんなで生きよう」

ウクライナのおともだちと共に、パレスチナ・ガザのおともだちと共に  
能登半島地震で被災したおともだちと共に  
アイヌのおともだちと共に  
東日本大震災で被災したおともだちと共に  
全国の教会の子どもたちと共に（「教会学校応援セット」）

**献 金 先：**特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン  
パレスチナ自治区・ガザにある アハリー・アラブ病院  
北陸学院キリスト教センター・支援窓口  
北海教区アイヌ民族情報センターとアイヌ奨学金キリスト教協力会  
東北教区放射能問題支援対策室いずみ  
教会・伝道所の教育活動支援（「教会学校応援セット」として）

～上記のほか、緊急に必要なところに献金の一部をお送りする場合があります～

**献金目標：**800万円

**期 間：**2024年12月1日～2025年3月31日

**送 金 先：**①郵便振替 00150-8-27638 日本基督教団教育委員会 もしくは  
②ゆうちょ銀行 0一九店（ゼロイチキュー店）当座預金 0027638 日本基督教団教育委員会

**問合せ先：**日本基督教団教育委員会 クリスマス献金係 メール：kyouiku-c@uccj.org  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31 電話：03-3202-0544 ファックス：03-3207-3918

※「趣意書」は、子どもたちへの説明や、CS教師会などで是非ご活用下さい。  
※子ども向け広報誌「みんなで生きよう」を追加でご希望の場合は、上記までご請求下さい。  
※また、「みんなで生きよう」の送付部数が多い場合も、お手数ですが上記までご連絡下さい。  
次年度より部数を減らしてお送りします。

## 2024年度 クリスマス

主の御名を賛美いたします。日本基督教団教育委員会では、クリスマス時期を、喜びを分かち恵みの時ととらえて、皆さまに献金を呼びかけています。

～今年は次の5件に献金を献げたく、ご案内をいたします～

### 1. ウクライナのおともだちと共に： 特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン

2022年2月24日、独立国であるウクライナにロシア軍による侵攻が始まりました。ウクライナでは、軍事施設だけでなく、住居、学校、病院、発電所や給水施設などのインフラも攻撃を受け、一般の市民にも深刻な被害が及んでいます。侵攻から2年半以上が経過し、支援を必要とする人は、当初の300万人から1460万人と5倍近くに増えています。またそのうち290万人が子どもとされています。国内外で避難を続ける子どもたちと家族へ、以下の支援を続けています。

＜現在の主な支援活動＞ ～食糧支援・越冬支援・教育支援・心のケア～

- ・日常生活を支えるための食糧提供、必要なものを購入するための現金給付、衛生用品の配布。
- ・マイナス20℃の冬を越すため、毛布・暖房器具などの配布、燃料費のサポート。
- ・子どもたちが継続的に母国語で教育を受けるためのリモート教育支援。
- ・子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり、レクリエーションによる心のケア。
- ・避難所スタッフ・教師にむけて、トラウマに関する研修や認定プログラムの実施。

～チャイルド・ファンド・ジャパンより皆さまあてに「感謝状」をいただきました～

ウクライナ人道危機にて避難を余儀なくされた人々へ、お気持ちを寄せられ、現地の子どもたちや家族のために、温かいご支援を下さいました。そのご厚意に対し、深く感謝の意を表します。

今年のクリスマスも、ウクライナの子どもたちを覚えて献金をおさげしたいと思います。

### 2. パレスチナのおともだちと共に： パレスチナ自治区・ガザの アハリー・アラブ病院

パレスチナは聖書の主な舞台でもありますが、1945年のイスラエルの建国以降、多くのパレスチナ人は代々生活していた土地・家・故郷を奪われてきました。軍事対立や経済封鎖による混乱と貧困があり、教育と保健医療は慢性的に不足しています。その中で、ガザ地区にある**アハリー・アラブ病院（聖公会エルサレム管区運営）**は、宗教や民族の違いに関係なく、すべての住民に高水準の医療を提供する総合病院です。救急外来は24時間体制で、食糧はもちろん医療活動に不可欠な電気や水道さえもたびたび止められる状況の中、困難の中にいる人々に寄り添ってきました。

2023年10月7日、イスラエルはハマスへの報復として、ガザ市内の過密住宅地へ大量の爆弾を落としました。街は破壊され多くの市民が亡くなりました。ガザの人口は約230万人。世界有数の人口密度の高い地域です。完全封鎖が宣言される中、ガザの人々が避難する場所はありません。

10月18日、ガザ市中心部にあるアハリー・アラブ病院も、イスラエルのミサイル爆撃を受け、500名以上が殺害されました。病院はイスラエルによる爆撃から逃れ、安全な場所を探す数千人の住民のためのシェルターにもなっており、病者、負傷した者も含め、多くの弱い立場の人々が犠牲となりました。2024年8月現在、死者の数は4万人を超え、その7割が女性と子どもです。

～アハリー・アラブ病院を支援する会ニュース・レターNo.45より 最新情報～

2024年7月、病院はイスラエル軍によって突然閉鎖を命じられました。当初、入院患者もスタッフも退去を強いられましたが、病院はわずか2日間の休止を経て、ただちに再開しました。

また、ガザ南部ハーン・ユニスのマワースィーにあらたに診療所を設立しました。

アハリー・アラブ病院の再建を目指し、「平和を実現する者」として祈りに覚えましょう。

### 3. 能登半島地震で被災したおともだちと共に： 北陸学院キリスト教センター・支援窓口

2024年1月1日、能登半島で震度7、M7.6の地震が発生しました。金沢市にある北陸学院では、学院キリスト教センターが中心となり、学院全体で祈り、共生地域創造財団と協働して支援物資保管場所の設置、支援金窓口の開設、中高生による交流会&相談会、傾聴活動（カフェ）、足湯ボランティアなどを行いました。また子ども支援活動として、特定NPO法人ワールド・ビジョン・ジャパンと連携し、チャイルド・フレンドリー・スペース「みんなで遊ぼう！」の活動を行いました。子どもたちは体育館で思いっきり体を動かして楽しんだり、大学生や大人に自分の

想いを話して、ありのままの自分を表現することができたのではないかと思います。

さらに「北陸学院大学 被災地支援センター」を立て、2月後半からは道路復旧も進んだため大学生のボランティアは、輪島市、能登町、珠州市の被災地域で、地震で壊れた住宅の片づけなどを手伝いました。3月以降は全国の大学生と被災地（能登）を繋ぐ機能を担うために、学生ボランティアの募集、移動手段の確保、宿泊調整を行っています。地域教会とも協力し、ボランティアの受け入れ拠点、被災者の安心につながる場所づくりを目指しています（仮設住宅にベンチを設置・花壇作り・お茶会サロンなど）。

大学生ボランティア・被災地の人々を支える北陸学院の被災地支援活動を応援しましょう。

#### 4. アイヌのおともだちと共に：

##### 北海教区アイヌ民族情報センター と アイヌ奨学金キリスト教協会の

北海道は先住民族であるアイヌ民族の人たちが昔から自然と共に生きてきた土地で、アイヌの言葉でアイヌ・モシリ「人間の土地」といいます。けれど日本が近代国家として歩むなかで、アイヌ民族の人たちはそれまで住んでいた土地での生活、文化や言葉も奪われてきました。そうした過去の歴史を反省するなかから、1988年に《アイヌ奨学金キリスト教協会》が設立され、アイヌ民族の修学・人材養成・国際交流に対する支援を行ってきました。柱である奨学金制度のほか、アイヌの子どもたちの学習教室《とかちエテケカンパの会》の支援や、先住民族との文化交流にも資金が用いられています。1996年には「アイヌ民族の権利回復と差別撤廃を教会が宣教課題として取り組むことを目的」として《北海教区アイヌ民族情報センター》が開設されました。

今年は奨学金制度で、高校生5名、専門学生1名、大学生6名が学んでいます。さらに、指導者養成（とかちエテケカンパ、台湾原住民研修）に用いました。昨年に比べて2～3倍増えています。

アイヌの人々の生活はいまだに苦しい状況に置かれており、進学率も低いままです。そのような環境の中で努力し、進学、卒業へと進んでいる子どもたちを覚えお祈りください。

#### 5. 東日本大震災で被災したおともだちと共に： 東北教区放射能問題支援対策室いずみ

2011年3月11日の東日本大震災より13年が経ちました。東京電力福島第一原子力発電所事故により、今まで自然豊かに暮らしていた土地、山、海は放射能により汚染されてしまいました。

放射能による健康影響が最も大きいのは子どもたちです。2013年10月、そうした子どもたちとご家族の不安を少しでも取り除こうと、医師による健康相談や甲状腺エコー検査、保養プログラムなどを行うため、《東北教区放射能問題支援対策室いずみ》は発足しました。今年で11年を迎えます。教団教育委員会でも、2013年度クリスマス献金より、継続して支援してきました。

～東北教区放射能問題支援対策室いずみの具体的な活動は以下の通りです～

- ① 甲状腺検査や健康相談      ②外でのびのび遊んだり、ゆっくりできる親子保養プログラム
- ② 「子ども脱被ばく裁判」や「311子ども甲状腺がん裁判」などの支援

～原発事故当時の原告=甲状腺がん当事者の年齢は6歳から16歳、現在10代～20代の青年です。

2023年12月18日、「子ども脱被ばく裁判」で、仙台高裁は国や福島県の行政責任を免罪する不当判決を言い渡しました。これに対し、原告親子・弁護団は最高裁へ上告しました。～支援活動は長期にわたって続ける必要があります。今年もいずみの働きを覚えてお祈り下さい。

*\*それぞれの団体の活動は、各団体のHP(ホームページ)でもご確認いただけます。*

どうぞ『みんなで生きよう』誌と併せて、教会学校の子どもたち、幼稚園・保育園・子ども園、学校の子どもたちにご紹介くださり、またそれぞれの団体の働きのためにお祈りください。

#### 6. 教会学校のおともだちと共に： 「教会学校応援セット」 \*2007年度より実施

皆さまから届けられた献金は、上記5件のほか、「教会学校応援セット」贈呈のためにも用いられます。教会学校（子どもの教会）を再開したい、活性化させたいという祈りに寄り添うことができるようにと、以下の3つのコースを用意し、希望する教会・伝道所に贈っています。

## コース内容

(A) 聖書10冊、こどもさんびか10冊、「伴奏譜」1冊 (3教会)

\*「聖書」は口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳の中からお選び下さい。

\*「こどもさんびか」は「1987年度発行」か「改訂版こどもさんびか」をお選び下さい。

(B) 聖書物語絵本と紙芝居、教材とカードのセット (3教会)

(C) ヒムプレーヤー 1台 (2教会)

【「教会学校応援セット」応募に関して】 \*締め切りは 2025年1月31日

①応募を希望する教会・伝道所は、教師会または役員会でご検討いただき、教団教育委員会にお申し込み下さい。「教会学校応援セット申込書」は所定の用紙があります。教育委員会にお問い合わせいただき、「申込書」をお取り寄せ下さい。(電話：03-3202-0544)。

②「申込書」に必要事項をご記入のうえ、ファックス(03-3207-3918)またはメール(Email: [kyouiku-c@uccj.org](mailto:kyouiku-c@uccj.org))でお申し込み下さい。応援セットをお届け後に委員会より様子をお伺いしますので、連絡先は詳しくご記入ください。 締め切りは 2025年1月31日です。(厳守)

※過去に「教会学校応援セット」の贈呈を受けられた教会・伝道所は3年間応募をご遠慮下さい。

※申込書に記載された《活動予定》と《教会規模》等を考慮のうえ、2月開催の教育委員会にて選定および決定いたします。結果はお電話でご連絡いたします。

※「教会学校応援セット」贈呈後に簡単な「報告」を提出していただきます(締め切り7月31日)。

## ☆ 昨年度(2023年度)クリスマス献金 感謝報告 ☆

2023年度のクリスマスも「みんなで生きよう」という主題のもとで献金をお願いいたしました。日本全国各地より、教会学校ばかりではなく、キリスト教学校、幼児施設、そして個人、団体から、心のこもった貴い献金をお寄せいただきました。大変ありがとうございました。教育委員会で検討した結果、献金の配分については、以下のようにさせていただきました。

献金総額： 5,917,711円 (合計413件 2023.4.1~2024.3.31)

送り先・金額：

＜ウクライナのおともだちと共に＞

① 認定NPO法人 チャイルド・ファンド・ジャパン《ウクライナ緊急支援》 150万円

＜アイヌのおともだちと共に＞

② 北海教区アイヌ民族情報センター・アイヌ奨学金キリスト教協力会 100万円

＜東日本大震災で被災したおともだちと共に＞

③ 東北教区放射能問題支援対策室いずみ《甲状腺検査・親子保養プログラム等》 150万円

＜緊急支援 / 追加・2件＞

④ パレスチナ・ガザ地区 アハリー・アラブ病院 (聖公会エルサレム管区運営) 30万円

⑤ 北陸学院キリスト教センター 《能登半島地震支援の為にボランティア活動》 30万円

2023年度、「教会学校応援セット」の応募はありませんでした

\*以上の5件にクリスマス献金を送金いたしました。  
残金は広報費等に用いました。